

1 学校教育目標

教育基本法の目的及び理念、並びに熊本県教育大綱に基づき、21世紀の我が国と地域社会を担う有為な人材の育成を目指す。この目標達成のために本年度の学校経営目標を以下のように定め、体・徳・知の調和のとれた生徒の育成に努める。

校是【盡己竭成】

(「文武一体」基礎基本の力、「凡事徹底」やり抜く力、「恕のこころ」思いやりの心)

2 本年度の重点目標

3・5・7 program (3つの理念と5つの視点と7つの実践)

(1) 3つの視点【100周年を迎えた時の学校像】

- ア グローバルに活躍する大津高校ブランド卒業生輩出
- イ 質の高い教育に裏付けられた城東地区進学校
- ウ 革新の力溢れる体力・知力・人間力の統合

(2) 5つの視点【大高が目指す「グローバルスタンダード」(いつどんな場所でも臆することなく)】

- ア 自分の立ち位置を知る
- イ 自己を鍛える
- ウ 自ら考え価値観を表現する
- エ 世界と繋がる
- オ 未来の課題に取り組む

(3) 7つの実践

- ア 授業改善とGlobal教育
 - ・到達目標を明確にした主体的学びへの授業改善
 - ・Globalな課題を解決する態度の育成
(・探究の時間 ・授業研究会 ・海外修学旅行)
- イ チャレンジ大会・体育大会・ダンス発表会
 - ・一日一日の計画的鍛錬とその成功体験
 - ・可能性を信じ続ける大切さの実感
(・チャレンジ完走 100% ・集団演技)
- ウ 生徒会・ボランティア・社会貢献
 - ・自主的・主体的をキーワードとした新企画を実現できる活動への support
(・生徒総会 ・主権者教育 ・地域連携活動)
- エ 理数科・体育コース・美術コース
 - ・専門学習で得られた成果を発表する機会の拡充
 - ・専門領域に焦点化した高大連携
(・コンテスト等実績向上 ・社会貢献活動)
- オ 部活動振興
 - ・自らの成長を感じ取れる日々の練習
 - ・顧問と生徒の信頼関係を通じた人間力の育成
(・目標の明確化 ・サッカー一部全国制覇)
- カ 課外授業・個別添削指導
 - ・生徒の希望、保護者の願いを叶える指導
 - ・進路目標の consensus に立った個別指導の充実
(・進路シラバス ・進路面談指導)
- キ 心の教育・防災教育
 - ・「恕」相手を思いやる教育 program
 - ・震災経験を風化させない教育の確立
(・恕のこころweek ・stress対処スキル学習)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
学校経営	学校力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	本校の教育課程の課題を明確にし、令和4年度の体制を決定する。校務分掌間の連携を深め、コミュニケーションの充実、各学年部とそれを支える各分掌や教科との連携を実践する。	学校改革検討委員会を立ち上げ、校務分掌をまたいだ内容を議論する。特に多様な進路希望に対する教育課程を含めた議論を行い、学年会において各分掌・教科の連携を提案する。	A	○情報・企画部を主査としてプロジェクトチーム(各教科から選出)を立ち上げ、カリキュラム・マネジメントの検討を進めている。 ○コロナ禍での各行事への検討を行い、行事内容の精査にもつながった。(教職員:共通理解と連帯感9割を越えている。) ○Classiの活用により連絡体制がスムーズになり、毎朝の学年会の時間が充実し共通理解が深まった。
		生徒の夢実現のための取組	部活動の振興を図り、生徒が生き生きとした学校生活を過ごすことで、9割の生徒が「入学して良かった」と回答する。	・部活動の支援体制の整備を図り、全校応援等を通じて本校における生徒の「大高魂」を高める。	B	△多くの行事が開催できない中、感染防止に取り組み、部活動、ダンス発表会やクラスマッチ、チャレンジ大会等を実施させた。(生徒の入学して良かったとの回答が約8割と目標を下回った。)
	外部への情報発信	ホームページの充実と学校便りの発行	本校の取組や生徒の頑張りをホームページで随時紹介し、7割の保護者が「ホームページが充実している」と回答する。また、学校便りの発行等を通して、近隣の中学校等へ本校の取組を周知する。	・各科、コース、部活動等の結果をPRし、情報を随時更新する。 ・学校便り(美コース便り等)を学期毎に作成し、近隣の中学校等へ掲示を依頼する。	A	○生徒の学校での活動を適宜ホームページやPTA新聞で伝えることができた。(保護者:ホームページが充実と8割以上が回答) ○管理職による中学校説明会を全24ヶ所で開催した。また、各科・コースの情報を学校便り(科・コース便り)として作成し、近隣の学校説明会で配付できた。
	業務改革	勤務時間打刻調査による時間外勤務時間の減少	業務の偏りを無くし、勤務時間外業務時間を減らす。	・各校務分掌の業務を業務シートに記入し、整理する。 ・業務の偏りを確認し、主任主事が調整する。	B	○各校務分掌で業務の見える化シートを作成し業務内容を整理し、業務の見直しに役立てた。 △時間外勤務時間調査では、十分に数字として改善は見られなかった。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	基礎学力の向上	分かる授業の展開	基礎基本の定着と向上を図る授業を展開し、8割の生徒が「授業は丁寧で分かりやすい」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 各テストを授業へ反映させ、基礎基本の徹底を図る。 外部での研修や校内外の公開授業等へ積極的に参加し、授業力向上に努める。 	A	○1・2年生の数学、英語では展開授業を行い、基礎基本の徹底に重点を置き、応用力の育成も図った。（「授業は丁寧で分かりやすい」の回答が8割あった。）
		学習習慣の確立	自主的・自発的な学習の支援を充実し、生徒の学習習慣が定着する。（1・2年は2時間、3年は3時間）	<ul style="list-style-type: none"> 面談等を行い、個に応じた家庭学習について指導する。 スタディサプリやClassiの活用を図る。 家庭学習時間の調査を行い、定期考査や模擬試験結果との相関関係を調べる。 	B	○担任を中心に日常的な個別面談や個別学習指導を日々行うことができた。「個別の質問などに熱心に指導してくれる」の生徒の回答が約9割。 △「学習習慣が身に付いた」の回答が6割程度であった。
	授業の充実	研究授業等の実施	研究授業の実施や外部公開授業や研究会への参加等で授業の改善を図り、8割の生徒が「授業は丁寧で分かりやすい、授業は自分の興味・関心を高めてくれる」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回研究授業と公開授業週間等を実施する。 全職員が学期1回以上授業を参観する。 スーパーティチャー配置校における公開授業等への参加を促す。 	A	○初任者研修研究授業や英語科における教育センターとの連携授業研修等を実施した。全教科の研究授業は実施できなかったが、リモート授業の対応など新たな実践が進んだ。 ○「授業は丁寧で分かりやすい」の生徒の回答が8割あった。 ○スーパーティチャーによる授業改革研修と学級経営についての講話に刺激を受けた。
キャリア教育（進路指導）	進路指導の充実	自己実現への意欲の喚起	生徒・保護者に対する進路情報の提供、大学等との連携等を通し、進路意識の高揚を図り、8割の生徒が「進路志望先を定め、その達成のための努力をしている」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から「進路の手引」を充実し、新大学入試制度に対応できるものとして刷新した。一年次から面談や家庭訪問等でその活用を図り、進路意識の高揚に努める。 大学や専門学校等と連携し進路ガイダンス、進路講演会等を充実する。 新大学入試制度への対策として、新テストに向けた授業改善や1・2年生の朝の課外授業を早期に開始する。 	A	○3年生では、「進路の手引き」の卒業生のデータや模擬試験等の資料を面談等で活用し、適切な進路指導ができた。 ○大学の出前授業は、1、2年生の多くが参加し、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。（「進路指導が充実している」の生徒の回答8割5分） ○今年度の課外は例年より多くの希望者が参加している。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育 (進路指導)	進路指導の充実	個別指導の充実	個に応じた指導体制の充実を図ること で、生徒一人一人の進路意欲が高まり、8割の生徒が「進路実現に向けての個別指導が充実している」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通して生徒の進路について意識を高めるとともに、個々の生徒の目標について情報の共有を行う。 ・学年を中心に生徒に応じた目標の設定と個別指導の計画、教科と連携した指導体制を確立する。 ・Classiの活用を図る。 	A	<p>○一斉授業と並行させながら、応用力を高める個別指導を充実させることで、各学年の対外模擬試験等で成果をあげることができた。また、3年においては総合型選抜、学校推薦型選抜入試において合格に繋がった。 (生徒：個別質問に熱心に指導と回答約9割)</p> <p>△Classiでの課題配信等を行ったが、生徒の自宅での視聴時間を増やすことができなかった。</p>
生徒指導	健全な心の育成	基本的な生活習慣の確立	あいさつや掃除、言葉遣い、身だしなみの整備、交通ルール・マナー等、凡事徹底の積極的な実践によって、7割の生徒が「ルールを守っている」と回答する。携帯電話、スマートフォン等の適切な使用方法の定着を図り、8割の生徒が「ルールを守っている」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な声かけを実践し、生徒の情報の共有化と学年との連携強化を図る。 ・HR、集会を通じた指導の徹底を図る。 ・定期的に街頭指導と交通安全教育を実施する ・生徒会、PTAと連携し、ルール「午後10時以降の使用禁止」を徹底する。 	B	<p>○毎日の登校指導での声掛けとあいさつ指導や、各HRや集会等で継続的な服装指導を実施することで、昨年度繰り返し指導を受けていた生徒が改善した。</p> <p>○8月に新規バイク通学生を対象に安全運転講習会を自動車学校の協力を得て実施した。生徒の交通安全意識は高く9割8分の生徒が交通ルールやマナーを守っていると回答。</p> <p>○職員間の共通理解を図る研修を実施し、年間を通して統一した指導ができた。生徒も必要性を理解している。(生徒：生徒指導の必要性の理解と回答8割)</p> <p>△年度初めの説明やスマートフォン利用に関する専門家を招いての講話等が実施できなかった。昼休み等での校内での無断使用が数件見られた。また、約4割の生徒が家庭や学校のルールを守っていない現状がある。</p> <p>△防犯意識が低く、貴重品の管理について継続的な指導が必要である。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	健全な心身の育成	生徒会活動、ボランティア活動の充実	自主的な行事等の運営と校外のボランティア活動への参加を促し、8割の生徒が「積極的に参加している」と回答する。	・生徒参加型の企画運営を行い、各種ボランティア活動の紹介と参加を促す。	A	△体育大会、文化祭など生徒会が活動する機会が失われた。クラスマッチにおいて生徒会を中心とした各クラス生徒が主体的な取組ができた。 ○各種ボランティア活動に積極的な参加が見られた。(生徒:積極的に参加していると回答約8割)
		健康教育、環境教育の充実	保健委員会活動の充実や積極的な美化活動への取組、学習環境の改善に向けての意識の喚起を図り、8割の生徒と教職員が「校内美化やエコ活動に取り組んでいる」と回答する。	・保健、美化委員会を中心とした掃除の方法等の紹介や環境教育の充実に努める。	A	○学習環境整備プラン(SSK-P点検)の評価項目や各クラスとの事前事後の連携等を確実に実施し、学習環境への意識向上へと繋げた。 ○美化委員会と保健委員会を中心として、掃除方法等の紹介や環境教育の充実に努めた。(エコ活動に取り組んでいると回答、生徒:約8割)
人権教育の推進	人権尊重の意識の向上	人権教育の充実	自他の命を大切に作る心の育成と、人権問題を意識した教育活動について、8割の教職員が「積極的に実践している」と回答する。	・人権教育の視点を踏まえた授業の実践を行うとともに人権教育LHRを中心とした人権問題啓発に係る取組の充実に努める。	A	○人権教育LHR等は日程を変更して計画どおり実施できた。各学年で生徒の実態に応じた教材を取り扱うことで充実したものとなった。
		職員研修の充実	個別の教育支援計画、個別の指導計画を完備し、配慮を要する生徒を支援するための情報を共有する。	・人権教育推進委員会(管理職を含む)を毎週実施し、内容の充実に努める。 ・情報の共有化並びに教職員の意識を高めるため学期に1回職員研修を実施する。	A	○継続して個別の支援計画等を作成し、授業担当者や外部機関の観察から得られ、支援内容について検討を行った。 ○生徒理解研修を、毎学期実施し、情報を共有することで事後の指導に生かした。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	命を大切に する心の 育成	プログラムの改善と実践	自他の命を大切に する心の育成を意 図する教育活動を 教職員全員で実践 する。	・教職員全員が、自 らの教育活動の機 会を捉えて、自他 の命を大切にする ことについて学期 に1回生徒に語る 場面を設ける。	A	○「怒の心ウィーク『心の きずなを深める月 間』」を実施し、命 の大切さを学ぶ教室 などを通して、教職 員の意識の向上、生 徒の心の教育を図っ た。 ○人権教育、道徳教 育、いじめなどの根 絶に学校が積極的に 取り組んでいると8 割以上の生徒が回答 している。
いじめの防止等	いじめ をしない、さ せない、許さ ない姿勢の確 立	いじめの未 然防止	自己肯定感を高 め、他者理解を深 める教育活動を実 践することで、9 割の生徒が「学校 は楽しい」と回答 する。	・学期に1回、いじ めの防止等に関す る職員研修を実施 する。 ・体験活動、ボラン ティア活動を通 し、自己有用感を 涵養する。 ・学年毎に生徒の実 態を踏まえて、自 己肯定感や他者理 解を高めるストレ ス対処教育に係る LHRを実施す る。 ・SNS等が適切に 使用できるよう情 報モラルを高める 取組をLHRや全 校集会等の機会を 捉えて実施する。	A	○いじめの認知につい ては、対策委員会を 学期に1回開催し、 SCにも専門的見地か ら助言を頂いた。ま た、職員間の連携や 共通理解を高めるた めに、学年会等を利用 して生徒理解を深 めた。 ○学年ごとに実態に即 したストレス対処ス キルの授業をLHR で実施した。 ○全校集会や学年集 会、LHRやSHRでSNSの 適正使用を指導し た。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止等	いじめをしない、させない、許さない姿勢の確立	いじめの早期発見	いじめの早期発見につなげるため、「心のアンケート」を実施し、積極的ないじめの認知に努めるとともに認知したいじめ事案の早期解消を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回「心のアンケート」を実施し、その結果については速やかに事案の検証と認知に努める。 担任による個別面談をこまめに実施する。 いじめに係る相談窓口について生徒や保護者に周知する。 	B	<p>○いじめと認知した事案については、担任・学年・生徒指導部・保健部と連携し、早期解決に努めた。</p> <p>○担任や学年主任との面談を随時行い、必要な場合はSCとの面談も実施した。アンケートや面談からいじめ事案が発見され、生徒が我慢せず相談しやすい環境にある。</p> <p>○いじめに係わる相談窓口を入学式や通知等で保護者にも周知した。</p> <p>△冷やかしやからかいなど他者に対して不快に感じさせる事案が日常的にある。このような事案がいじめに発展しないよう対応していく必要がある。</p>
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校施設の防災・避難所機能の構築	P D C A サイクルの実践と地域の理解	一昨年度、大津町と結んだ災害時に学校施設を一時避難所とする協定を充実させ、学校防災計画をより良いものとするために防災型コミュニティ・スクールの枠組みを利用して議論を深め、地域と連携した避難所運営計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 避難所として学校を利用する視点から、校内の施設・設備の確認を行う。 避難所開設訓練とともに、避難所における高校生ボランティア設置訓練を実施する。 	A	○今年度大津町と「災害発生時における学校施設の避難所利用に関する覚書」を締結したことで、現在の「学校運営協議会」(防災型CS)の役割を果たした。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携(コミュニティスクールなど)	防災教育の推進	生徒の防災対応能力の向上	<p>カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた安全教育の充実を図る。生徒自身が状況を判断し、最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を身に付ける。自助だけでなく、共助の姿勢を持ち、安全な社会づくりに参画し、社会貢献に対する公助の意識や社会への帰属意識を醸成する。</p>	<p>・防災教育や避難訓練、防災新聞や防災マップの作成、防災講話を通して、生徒の防災意識の更なる高揚を図る。</p> <p>・防災主任を中心に防災教育の充実を図り、地域と連携した防災避難訓練等、体験的学習を取り入れる。</p>	A	<p>○7月豪雨災害時におけるボランティア活動等への参加を通して、生徒の防災意識高揚を図った。</p> <p>○防災主任による定期的な防災新聞を発行し、学年毎にLHRにおいて防災学習を行った。生徒のみならず職員にも自然災害メカニズムや、災害時の注意点などを説明することで、自然災害に対する意識改革等を図った。</p> <p>○保健部と連携しながら避難訓練を実施した。訓練の意義を説くなど、適時に指導を行うことで、災害時の自分の役割を意識させることができた。</p>

4 学校関係者評価
<p>学校評議員会及び学校関係者評価委員会の主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先生方が遅刻者や校則等を守らない生徒に対して細かく指導し、寄り添っている姿が見られてとても安心した。 ○高校生の中には困り感を持って不安になる生徒もいると考える。一緒に伴走しながら三年間、応援していただきたいと思う。 ○文武一体(両道)については、生徒、保護者ともに評価が高く、とても良いことだと思う。 ○進路指導や教科の質問など、本当に丁寧に生徒に対応されていて保護者も安心できている。 ○きめ細やかに具体的な目標が設定され、それぞれに評価がなされていると感じた。 ただ、これだけ項目が多くなると、評価が大変だったのではないかと思った。 ○生徒指導面において、スマートフォンの使い方や生活上における問題事案があったようだ。対象となった生徒等への指導は、保護者を交えて継続的に見守って欲しいと思う。 ○保護者、生徒の評価が高いと分析されていると考える。 ○新型コロナウイルス感染症の禍の中、新しい生活様式への早い対応や考え方、フォロー等々たくさんの方に取組まれたことで、安心した学校生活を送ることができたことが感じられる。 ○高校生へ「性」への問題意識、デートDV等、性被害も含め、相談しても良い雰囲気と学校での仕掛けづくりを考えてはどうだろうか。 ○少子化の影響もあるのか数年定員割れが続いている。令和3年度の入試にいたっては、体育コースの倍率も下がっていた。高校のアピールの方法もホームページだけでは、地域の子供たちに伝わりにくい気がする。在校生から大津高校の良さや校内の様子(生活)を発信したほうが、身近に感じられるのではないかと。まず興味を持ってほしいと思います。 ○中止になってしまった体育大会の団画を、熊本地震により改築中の大津町役場で展示されているのを見ることができた。その堂々たる姿に感動と励みをいただいた。 ○学校の魅力の一つは、どのようなキャリア教育を実践しているかである。大津高校での実践をもっと周囲に理解してもらい取り組みが必要である。

5 総合評価

新型コロナウイルス感染症拡大防止という状況下、4月からの2か月間の休校と感染防止の為に新しい生活様式及び各種行事の見直しや部活動等の大会自粛など、生徒にとって辛い1年であった。生徒の家庭での感染状況など心配する要素はあったものの、1人の感染者も出なかったことは大変よかったことである。

新学期早々の時差登校やクラスを分けての分割・時短授業の取り組み、休校期間中の授業計画やClassiを用いた課題送信、YouTubeを利用した授業動画配信など各教科で工夫し実践できた。夏休みの短縮や行事の自粛などもあり、授業の進度は概ね例年通り確保できた。また、2学期からの学校行事については、感染予防を常に意識し、萎縮せずに実施することに努めた。卒業式においても保護者席を指定し、卒業生の思い出に残る進行の工夫を行った。

1年生にとっては、友人関係の構築や高校生としての学習に取り組む姿勢、集団行動や学校の求める基本的な生活習慣の受容は容易ではなく、落ち着いた学校生活を送るのに時間を要した生徒もいた。3年生は、高校総体や総文祭の中止、体育大会や文化祭など学校行事の自粛もあり、大変残念ではあったが、進路目標達成に向けて最後まで先生方の指導を求め、前向きに取り組んでいたため良い結果に繋げることができた。

今年度の重点目標の7つの実践については以下のとおりである。

(1) 授業改善とGlobal教育

海外修学旅行は実施を見送った。他校視察や外部での教科研修はできなかったが、校内の教科内での教科研修やスーパーティーチャーを招いての授業改革研修と学級経営等に関する講話などを実施し、職員の教育力向上に努めた。

(2) チャレンジ大会・体育大会・ダンス発表会

体育大会は、期日の延期を検討していたが中止を余儀なくされた。チャレンジ大会は、距離を30kmに短縮し、スタートの密を避けるためにICチップを導入し実施した。ダンス発表会は、大津町文化ホールを会場に無観客で実施するなど、感染症対策を講じ、生徒の教育活動の発表の場を確保することができた。

(3) 生徒会・ボランティア・社会貢献

7月豪雨災害の後片付けボランティアや校内及び街頭での募金活動を行った。多くの生徒が参加するなど、ボランティアの精神が育成されている。生徒会は、3年生のために2学期にクラスマッチを企画したり、生徒総会を開き、規約の改正や「いじめ防止宣言」の策定を行ったりと主体的な活動を行った。

(4) 理数科・体育コース・美術コース

理数科は、大学訪問を見送ったが、九州電力から「環境とエネルギー」に関する講演をしていただいた。また、課題研究発表会を大津町文化ホールで実施した。体育コースは、ボルダリングやゴルフ実習を実施したほか、1年生の課題研究の発表を1、2年生で参観した。美術コースは、大学から講師を招き、デッサンの特別授業を行った。また、2月には卒業制作展（陽美展）を県立美術館分館で開催した。さらに、各種コンクールに挑戦し、多くの入賞を果たした。各課・コースの特長を生かした活動の中に生徒の成長を見ることができた。

(5) 部活動振興

文化部では、放送部、演劇部が九州大会に出場する活躍をした。運動部では、女子バスケットボール部がウィンターカップでベスト4、サッカー一部が選手権でベスト4、新人戦で優勝し九州大会へ出場するなど、制限された活動の中ではあるが、しっかりとした目標を持ち取り組んでいるため、素晴らしい結果を出している。

(6) 課外授業・個別添削指導

昼休みや放課後に多くの生徒が先生方に質問に来ている。特に3年生は、添削指導を求めてくる生徒が多い。早期に意欲を持って取り組んだ生徒ほど合格に繋げることができた。

(7) 心の教育・防災教育

職員研修でstress対処研修を実施した。研修を受けた職員の中にはHRですぐに実践し、クラスの生徒間の関係改善に役立てた。「命の大切さを学ぶ教室」では講演会を実施し、「怒のこころ」の育成に努めた。また、防災主任による防災新聞の発行を通して自助・共助の考えを深めることができた。

6 次年度への課題・改善方策

○新学習指導要領の教育課程の編成に向けて、本校のカリキュラム・マネジメントについて方向性の検討するために、「大津高校コンピテンシーマネジメントプロジェクトチーム（OCMP T）」を立ち上げ、「大津高校が育成したい資質・能力」の検討を行っている。この計画を形あるものに繋げていく。

○タブレットを活用した授業構築に向け、次年度職員研修を推進する。

○1年生の年度初めの指導は、高校生活を進めていくために必要な内容を多く含む。4月早期に宿泊研修を実施し、学習指導、集団生活指導、高校における基本的な生活習慣の指導を行う。

○新たな広報活動の在り方を考え、生徒募集にさらなる努力を重ねていく。